

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科		
科目名称 [英語名称]	子ども家庭福祉 [Child family welfare]			実務経験 教員担当	○	アクティブ ラーニング	○
科目コード	750169	授業形態	講義	単位数	2	配当学年	2年次
教員氏名	若宮 邦彦			学位授与の方針 との関連	DP1(2) DP3(1) DP3(3) DP3(4)		
授業概要	<p>本講義は児童や家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズ(子育て支援、ひとり親家庭、児童虐待や子どもの貧困、DVの実態を含む)について理解を通じ児童福祉専門職としての自覚を高める事を目的とします。【態度・志向性の育成】</p> <p>マクロレベル(法制度)の観点から児童家庭福祉制度の歴史や児童の権利について理解を深めます。加えて具体的な支援機関や社会福祉施設の概要、専門職の資格や専門性、その役割についても講義します。広義の社会的養護の観点に立ち、保育園や児童館、認定こども園についても近年の制度改正の内容をふまえて、その機能や職員の専門性についても講義します。その中で職業としての児童福祉を学び将来の職業選択の参考になる知識も修得します。【生涯学習力の育成】</p> <p>要保護児童対策地域連絡協議会委員や社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカーにおいて多問題家族に対するファミリーソーシャルワーク、多機関との連携によるケアマネジメント実践に携わっていた際の内容も授業に取り入れれます。</p>						
関連する科目	社会福祉、社会的養護Ⅰを履修しておくことが望ましい。履修後は社会的養護Ⅱを履修することが望ましい。						
授業の進め方と方法	アクティブラーニング型授業を展開します。前半では児童家庭福祉制度の概要と各専門機関における具体的な支援内容について講義します【知識・理論の修得】。後半ではドキュメントDVDの視聴、グループディスカッションや事例検討、ロールプレイを児童家庭福祉制度の様々な展開内容・臨床実践の内容等を学びます。【汎用的技能の育成】						
授業計画	<p>第1回 児童家庭福祉を学ぶ前に(授業の体系とポイント) 社会福祉、社会的養護との関連性をふまえて学びの基本視点を確認します。</p> <p>第2回 児童家庭福祉から児童家庭福祉へ</p> <p>第3回 児童家庭福祉の理念</p> <p>第4回 子どもの権利保障 社会福祉の萌芽と制度と理念の変遷。社会正義と人権尊重の基本的視座を学びます。</p> <p>第5回 現代社会における子どもと家庭の福祉的ニーズ(医療・障害系のニーズ)</p> <p>第6回 現代社会における子どもと家庭の福祉的ニーズ(児童虐待、貧困等の養護系のニーズ) 子どもや保護者を取り巻く様々な生活課題を要因とする福祉的ニーズの概要と実態を学びます。</p> <p>第7回 日本における児童家庭福祉の歴史 慈善救済事業に端を発する児童福祉の萌芽と歴史的経緯、実践家の取り組みと法制度確立の概要を俯瞰的に学ぶ。</p> <p>第8回 児童家庭福祉の法体系・機関</p> <p>第9回 児童家庭福祉の法体系・施設 児童家庭福祉にかかわる行政機関や民間の児童福祉施設の法的な位置づけ、機能、従事する職員の資格や専門性について、各機関や施設の種別ごとに学びます。</p> <p>第10回 児童家庭福祉の現状と課題Ⅰ 情緒・行動に問題のある児童の福祉施策</p> <p>第11回 児童家庭福祉の現状と課題Ⅱ 心身に障害のある児童の福祉施策</p> <p>第12回 児童家庭福祉の現状と課題Ⅲ ①母子・寡婦・母子保健問題と福祉施策 ② 児童の健全育成と福祉施策</p> <p>第13回 児童家庭福祉の現状と課題Ⅳ ①ひとり親家庭 ②養護と虐待防止 ③子どもの貧困 児童家庭福祉の潮流の中で、それぞれの生活課題・特性の概要と、個々に応じた支援機関と専門職の実践内容についてテキストの事例やドキュメントDVD等を視聴し、具体的な内容を学びます。</p> <p>第14回 児童家庭福祉の実践と児童福祉従事者。①児童福祉の専門職 ②専門技術 ③相談援助実践。 ソーシャルワーカーとしての専門性をふまえた基本姿勢、ケアワークならびに相談援助に関する技術(スキル)についてロールプレイやグループワーク、事例検討を通じて学びます。</p> <p>第15回 児童家庭福祉サービス機関とのマネジメント。 多職種連携、地域包括ケア、要保護児童対策地域協議会といったコミュニティケアの展開と、そのマネジメントの実際を学びます。</p>						
授業の到達目標	<p>1. 児童家庭福祉ニーズの中でも大きな課題となっている障がい児や児童虐待等、社会的養護の実態とその対策について学ぶとともに、マクロ領域の法律や制度を理解する【姿勢・志向性の育成】</p> <p>2. 児童家庭福祉の制度・政策に関する基礎知識を習得する。さらにソーシャルワークの視点から子どもの権利擁護と子育て支援のあり方などについても理解する。【職業知識・技能の育成】</p>						
授業時間外の学修	<p>1. 授業中に配布する資料、提示するテキストで予習・復習の箇所を提示します。</p> <p>2. 多様化する子どもの福祉ニーズ(子育て支援、ひとり親家庭、児童虐待やDVの実態を含む)・児童家庭福祉 制度の歴史や制度について理解するために、授業毎に基本テキスト・サブテキスト、配布資料を参考に20分程度の予習・復習を必須とする。</p>						
課題に対する フィードバック	レポート、最終試験は評価後、返却及び解説をします。	評価方法			以下の項目に基づいて評価します。 1) 学習意欲(授業中) - 50点 2) 小テスト及びレポート - 20点 3) 最終試験 - 30点		
テキスト	①『新エッセンシャル子ども家庭福祉論』千葉茂明 編著 みらい2019年。 ②『保育実践と児童家庭福祉論』相澤譲治・今井慶宗 編著、勁草書房、2017年。 その他、適宜プリントを配布する。						
参考書	『児童福祉の成立と課題』井村圭壯・相澤譲治 編著 勁草書房、2014年。						
備考							